

科目	日常生活活動学	担当	山田 和政	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

本科目では、日常生活活動(ADL)の概念・範囲について理解し、ADL障害の一般的な評価方法を学習する。また、ADLを支援する機器の種類と特徴、その選択方法と使用方法について学ぶ。リハビリテーションのゴールは「ADLの自立」といっても過言ではない。受講者は、日常生活活動の理解とその知識を修得することができる。

【履修注意】

適宜、講義の中で討論時間を設けるので、積極的かつ活発な意見交換を望む。

【評価方法】

期末試験(筆記)にて評価する。

【試験について】

中間試験は実施しない。

再試験対象者の条件: 期末試験が60点未満の者

【予習・復習】

講義毎の復習を十分に行ない、理解できなかった部分については、次の講義で積極的に質問すること。

【教科書】

書籍名: 新版日常生活活動(ADL)-評価と支援の実際- 著者: 伊藤利之(編集) 出版社: 医歯薬出版

書籍名: 福祉用具ハンドブック 著者: 尋木佐一・他(監修) 出版社: 大井企画

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	ADLの概念と範囲	ADLの概念と範囲、APDL、IADL
2	起居・移動動作	寝返り、起き上がり、座位保持、立ち上がり、立位保持、歩行、移乗
3	身の回り動作	食事動作、整容動作、更衣動作、排泄動作、入浴動作
4	ADL障害	ICIDHの構造と要素、ICIDHとADL障害の関係
5	ADL障害	ICFの理念・要素、ICFの構造・要素、ICFとADL障害の関係
6	ADLとQOL	QOLの構造、Maslowの欲求階層説、ADLとQOLの関係
7	ADLを支援する機器	義肢、装具、自助具、副子、スプリント、歩行補助具
8	ADLを支援する機器	車いすの種類と特徴、車いすの選択方法
9	ADLを支援する機器	車いすの採寸と使用方法
10	ADLを支援する機器	杖の種類と特徴、杖の選択方法
11	ADLを支援する機器	杖の採寸と使用方法
12	ADL評価	目的、対象、方法、尺度、時期
13	いろいろなADL評価表	Barthel Index、老研式活動能力指標、障害高齢者の日常生活自立度評価
14	いろいろなADL評価表	FIM
15	動作観察	重心の位置、支持基底面、動作の相分け、可能と実用性
16	期末試験	1~15コマの復習・確認・まとめ